



2021年国連 持続可能な開発のための海洋科学の10年スタート!!

お魚たちの声を聞いて 海を守る行動を!

おはよう さかなクンスペシャル

国連広報センター所長の根本かおるさんと対談

根本かおる
1963年、兵庫県神戸市生まれ。テレビ朝日のアナウンサー、記者を経て、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)で難民支援活動にあたった。2013年から国連広報センター所長を務める。

根本さん あとは、海洋プラスチックの問題もありますね。私たちは主に水や魚介類を通じて、1週間で1トン、1トン(5グラム)のプラスチックを食べている可能性があるんです。

根本さん はい。私も、地元の下葉県館山市をはじめ、各地の漁師さんとお話をうかがっていますが、ここ近年の海の変化が大きく、とても大変そうです。

根本さん 自然と向き合いながら暮らしている、漁師さんは大変な思いをしていらっしゃると思いますね。

根本さん 去年のサンマはやせてましたね。さかなクン 小ぶりです。値段も高く、びつくりでした。根本さん 自然と向き合いながら暮らしている、漁師さんは大変な思いをしていらっしゃると思いますね。

根本さん 気候が急激に変わり、海面上昇、海水温の上昇、海水の酸性化などが問題になっています。今までとれていた魚がとれないとか、サンゴが大量に死んでしまうとか。海の生き物の様子はすごく気になります。

環境が大きく変化
海洋プラスチック
問題も心配



あけましておめでとーギョーございます!! 今年から、「国連持続可能な開発のための海洋科学の10年」が始まります。SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」を達成するための活動や研究に、この10年間 集中的に取り組めます。国連広報センター所長の根本かおるさんと、海の問題や、海を守るためにできることを、お話ししました。

インドネシア・ベニダ島沖にうかぶごみ 2018年12月、インドネシア ©朝日新聞社



さかなクン ギョーギョー!!

そんなに食べちゃってるんですか! 以前、海にプラスチックがどれくらいいたか、調査に参加させていただきました。20分くらいで網いっぱいになりました。根本さん おそろしいですね。「使い捨てプラスチックを減らしていこう」という動きを、もっと広げていかなければいけないです。

まず調べよう
買い物から
世界を変える!



さかなクン 自分に関係ないと思わず、今、海はどういう状況なんだろう? 調べてみよう! という気持ちを持つことから始めたいですね。

国産の旬のお魚を食べることも大切! 私たちが食べているお魚は、それほど種類が多くありません。スーパーの鮮魚コーナーに並ぶお魚でも、年間数十種くらい。外国から輸入されたお魚も並んでいます。

海を守るため、できることから始めよう!

マイボトル
マイバック...
マイ〇〇を
使いましょう!



使い捨てプラを
減らしましょう!



根本さん 日本の知られて

根本さん おそろしいですね。「使い捨てプラスチックを減らしていこう」という動きを、もっと広げていかなければいけないです。

根本さん 「海洋科学の10年」には、消費者という立場からも関わっていかないと、限りなく減らしていくことができません。とりすぎて減らないよう、限度を守ってとられた魚などにつく「認証ラベル」の商品を選ぶ。値段がちよっと高いかもしれないけれど、買っただけで世界を変えるという、関わり方もあるかなと、お話を聞きながら思いました。

根本さん 日本には4000を超える種類のお魚がいます。もっとも工夫してさまざまな国産のお魚を食べることができれば、漁業にたずさわるみなさまがより一層元気に仕事をでき、食料自給率も上がります。

SDGs 14「海の豊かさを守ろう」

海や海の資源を守り、持続可能な形で利用することを目的としています。海にただようゴミを大きく減らし、汚染を防ぐ。海の生き物を減らさない、とりすぎないなど、10の目標が定められています。

国連持続可能な開発のための海洋科学の10年

SDGsを達成するため、今年から2030年までの10年間、海洋研究などを集中的に行うというものです。海を守るための知識を世の中に広めることもふくまれます。

さかなクン はい! これまで食用としては注目されなかったお魚(未利用魚)も、積極的にいただきますよ!!

